名門高校の校風と人脈 ⑰

静岡高校（静岡県立・静岡市）

富士山を仰ぐ県下一の名門 東西の有名大学に多数合格

「卯高（うこう）」という格調高い校訓を持つ。常に高いところに目標をおけ、という意味である。秀峰富士を校窓から眺める静岡高校ならではの校訓であろう。

静岡高校は1878（明治11）年に静岡師範学校内に開設された中学科を創始とする。翌年に静岡中学校となった。その後、何度も校名は変遷したが、1953（昭和28）年に静岡県立静岡高校に落ち着いた。県庁所在地にある伝統校であるから、県下一の名門校になったのは必然の成りゆきである。

静岡は気候温暖で物成りが良く、東海道の真ん中に位置する東西の通り道である。努力しないのんびり屋タイプが多い、とクサされることもあるが、静岡高校の卒業生はそんな俗説を跳ね返すかのように多方面で活躍している。

伊藤元重

売れっ子学者

テレビによく登場し、お茶の間にも親しまれているトレンディーな学者が2人いる。国際経済学の伊藤元重は、わかりやすい切り口で経済学やビジネス動向についてコメントし、新聞などにも解説記事を頻繁に出している。また教育学者の斎藤孝は、2001年に出した『声に出して読みたい日本語』（草思社）がベストセラーになったのをきっかけに、メディアで売れっ子になっている。

斎藤　孝

旧制時代の卒業では、言語学者で『広辞苑』の編集をして文化勲章を受章した新村出、多くの外国語に通じて名訳を残した上田敏、国際政治学の関寛治がいる。医学者では、勝沼精蔵が文化勲章を受章している。

学者になった卒業生は他に、精神科医で心理学のエッセーなども書いている春日武彦、鳥島に通い続けアホウドリの研究をしている長谷川博ら。アジア開発銀行研究所長の河合正弘は、アジア経済の第一人者である。

角替弘志は生涯学習論の大家。静岡大教育学部長を経て現在、常葉学園大学長を務める。栗田和明はアジアとアフリカ交易実態調査などで知られる文化人類学者で現在、立教大文学部長である。

作家では、詩人で芥川賞受賞の三木卓、直木賞の村松友視がいる。友視は、明治時代からの作家であった村松梢風が祖父であり、梢風も旧制静岡中学卒である。瀬名秀明は、『パラサイト・イヴ』でデビューしたSF・ホラー作家である。漫画家のしりあがり寿、童話作家の海野厚も卒業生である。

村松友視

旧制静岡中学の卒業生には、人間国宝に指定された人物もいる。型絵染の芹沢銈介で、民芸運動にも参加、20世紀日本の代表的な工芸家の1人である。挿絵画家の桜井誠もOBである。

音楽では、作曲家の川辺真、ピアニストの谷真人と柴郭

恵、声楽家の太刀川昭、マンドリニストの川口雅行らが卒業生である。

小泉政権で2人入閣

政官界を見てみよう。旧制静岡中学から旧制津中学（現三重県立津高校）に転校した下山定則は、下山事件の当事者として歴史に残る。1949（昭和24）年に初代国鉄総裁に就任して1カ月ほどたった時、東京・足立区の常磐線線路で轢死体となって発見された。自殺説、他殺説の両方が飛び交い、昭和史の謎の1つとなっている。

01年4月に発足した小泉純一郎内閣では、静岡高校ゆかりの人物が同時に入閣した。金融担当相の柳沢伯夫と文部科学相の遠山敦子である。柳沢は静岡高校に入学したものの2学期から定時制に移り、2年次からは静岡県立掛川西高校に転校した。新聞配達で学費、生活費をまかない東大から大蔵官僚のコースを歩んで静岡県選出の衆院議員となった。

遠山敦子

遠山は東大に進学し文部省に初の女性キャリアとして入省した。文化庁長官、トルコ大使などを経て国立西洋美術館館長に天下りしていた際、民間人として大臣に起用された。塩谷立も文科相をした。

静岡県知事をした山本敬三郎、前静岡市長の小嶋善吉、現静岡市長の田辺信宏もOBである。

法曹界では、民事介入暴力対策の辣腕弁護士・深沢直之と、サリドマイド、予防接種訴訟などにかかわり患者側の立場から国や企業の責任を追及してきた人権派弁護士の秋山幹男が卒業生である。昭和の初めから戦後を通じ人権擁護で活躍した海野晋吉は、旧制卒の弁護士である。

財界四天王の1人

経済界では、旧制卒の水野成夫が著名だ。フジサンケイグループを仕切り、財界四天皇の1人に数えられた。やはり旧制卒で三菱重工業のトップを務めた牧田与一郎は、三菱の創業家・岩崎家と縁戚で三菱グループのリーダー格の役割を果たした。

さらに元職と現職がまじるが、山路敬三（キヤノン）、長谷川至（ヤマハ発動機）、大嶽隆司（小糸製作所）、横山進一（住友生命保険）、戸田裕一（博報堂DY）、8代目鈴木与平（鈴与）、伊藤勝（図書印刷）、横山隆美（AIU保険）、畑中好彦（アステラス製薬）、多賀谷秀保（三菱自動車）、石山喬（日本軽金属）、加藤壹康（キリンホールディングス）らの企業トップを輩出している。酒井次吉郎と松浦康男は地元の静岡銀行頭取になった。

江川豪雄は三菱航空機社長（現職）として、国産初の小型ジェット旅客機「MRJ」の開発を推進、受注は既に230機に達し順調という。

卒業生で創意工夫に富んだ2人のビジネスマンがいる。嶋正利は1971（昭和46）年に、世界初の商用マイクロプロセッサー「Intel4004」の設計・開発に携わり、米インテル社が世界一の半導体メーカーに成長するのに寄与した。田宮俊作は、模型作りの会社・タミヤを世界的な知名度のある企業に育て上げた。

甲子園の常連校

アンチエイジング指導者でTBCグループ代表の手塚圭子がOGである。年配者に対して手塚は、「PPK（ピンピンコロリ）で、豊かな老後を過ごそう」と説いている。

近藤博之は26歳の時に星雲の志を抱いてブラジルに渡り、サンパウロ近郊に70ヘクタールの近藤牧場を切り開いた。青島泰之はユネスコ（国連教育科学文化機関）の東アジア代表・北京事務所長を務めた。

メディア関係では講談社第4代社長で、中興の祖といわれた野間省一が旧制卒である。元NHKアナウンサーで歌舞伎評論をしている山川静夫と、日本テレビのプロデューサーで、バラエティー番組でならす土屋敏男もOBである。時事通信社の常務取締役編集局長をした八牧浩行は現在、中華圏ニュース通信社「RecordChina」の社長をしている。

静岡県内にはサッカーが強い高校が多いが、静岡高校もバスケット、テニス、サッカー、野球など運動部の活躍が目立つ。

とりわけ野球は名門高校の1つに数えられる。最近では11年夏の甲子園大会に、8年ぶり22回目の出場を果たした。昔になるが、1926（大正15）年の夏には旧制静岡中学が全国優勝を遂げている。春の大会には14回出場している。

1960年の準優勝チームで主将だった石山建一はその後、早大野球部監督や社会人野球で活躍した。現役のプロ野球選手では、高木康成（巨人・投手）、増井浩俊（日本ハム・投手）らがいる。

デンマーク大使をした小川郷太郎は、現在は全日本柔道連盟国際委員会の特別委員である。

12年度の大学入試結果では、東大8人、京大10人、北海道大10人、東北大8人、名古屋大10人、大阪大7人と各地の国立大学に合格者が分散している。東西どちらにも行ける静岡高校の立地状況が反映されており、これが伝統になっている。

（猪熊建夫・ジャーナリスト）

（敬称略、会社名・肩書などは当時＝次回は大阪府立三国丘高校（上））